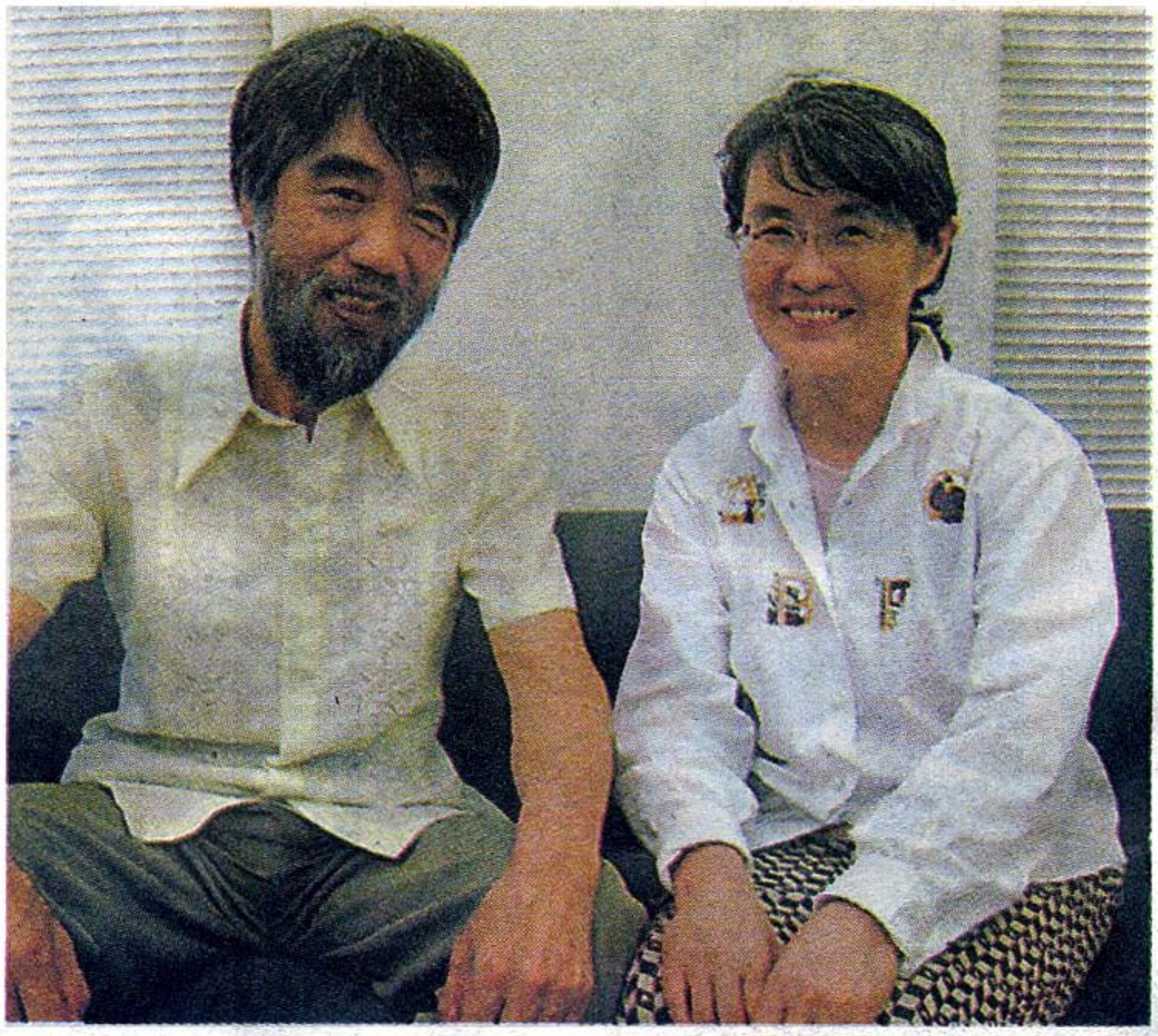
オペラと歩んだ半生紹介

天正遣欧少年使節を題材にした創作オペラ「忘れられた少年」の公演で知られる東京オペラ協会の芸術監督、石多

２人の半生の紹介を織り交ぜたオペラのリサイタルを開く石多エドワード・加代子夫妻



29日 石多夫妻がリサイタル

佐世保市のアルカス

エドワードさん(62)と妻加代子さんが29日午後6時、佐世保市三浦町のアルカスSASEBOでジョイントリサイタルを開く。歌と歌の間には、夫妻の語りを入れて、より多くの人に楽しんでもらうために、日本語でオペラを歌ってきた2人の思いや半生を紹介する。

リサイタルは、2部構成で、1部は「からたちの花」（山田耕筰）、「魔王」（シューベルト）、「フィガロの結婚」（モーツァルト）など21曲、2部はエドワードさん作詞作曲の9曲を披露する。

語りでは、エドワードさんが、戦時中に結婚した日本人の父とフィリピン人の母の間に生まれたことや、東京や波佐見町を拠点に35年間続けてきた活動を紹介。オペラを通した国際交流や、プロ・アマを問わずに歌を披露でき、障害者や子どもも楽しめる「ユニバーサルデザインオペラ」に取り組んできた思いを伝える。入場料は前売り3千円（指定席4千円、学生2千円、高校生以下千円）。オペラプラザ長崎＝0956（85）2027。